

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法治療学		必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
大塚 篤也 他	D318	a.otsuka	火曜日 15:00-16:00		
授業の目的・概要	理学療法を実施するにあたり、まず理学療法の一連の過程を理解することが大切である。そのため理学療法治療学では、症例から得られた情報の統合と解釈、問題点抽出、目標設定、治療プログラムの立案方法を学び、理学療法の系統的プロセスを習得することを目的とする。遠隔授業にて、理学療法評価・治療の系統的プロセスについて講義を行い、その後提示した症例に対して、治療プログラムの立案、効果判定まで行う。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	PT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター/著:相澤純也、美崎定也、石黒幸治/羊土社/2016				
参考書	理学療法リスク管理マニュアル 第3版/聖マリアンナ医科大学リハビリテーション部/三輪書店/2014 運動処方指針 原著第8版/監:日本体力医学会体力科学編集委員会/南江堂/2013				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	基本的な理学療法の系統的プロセス (評価から治療) を説明できる。			PT (2)、PT (3)、PT (5)、PT (6)	
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (理学療法評価・治療の概要を学習する)	同時双方向型 授業	理学療法評価・治療の概要、一連の過程を教科書、配布資料で確認する。	8	
2	理学療法評価・治療の一連の過程を学習する。	同時双方向型 授業			
3	「系統的プロセス①」統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、考察の概要を学習する。	同時双方向型 授業	理学療法の系統的プロセスについて、教科書や配布資料で確認する	16	
4	「系統的プロセス②」統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、考察の概要を学習する。	同時双方向型 授業			
5	「系統的プロセス③」症例提示 (大腿骨骨折) 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、考察の方法を学習する。	同時双方向型 授業			
6	「系統的プロセス④」症例提示 (大腿骨骨折) 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、考察の方法を学習する。	同時双方向型 授業			
7	「治療プログラム①」 1.内容、2.効果、3.トレーニングの原則 (FITT:運動強度、頻度、持続時間、タイプ)、4.リスク管理 (救急措置等も含む) の概要を学習する。	同時双方向型 授業	治療プログラムについて教科書、配布資料で確認する。	4	
8	理学療法評価・治療の記録、報告方法を学習する。	同時双方向型 授業	理学療法評価・治療の記録、報告方法を教科書、配布資料で確認する。	4	
9	ペーパーシミュレーション症例提示 (脳卒中) 統合と解釈を学習する。	同時双方向型 授業	症例に対する統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、治療プログラム、リスク管理、考察をレポートにまとめる。	16	
10	ペーパーシミュレーション症例提示 (脳卒中) 問題点の抽出、目標設定を学習する。	同時双方向型 授業			
11	ペーパーシミュレーション症例提示 (脳卒中) 治療プログラム、リスク管理、考察を学習する。	同時双方向型 授業			
12	ペーパーシミュレーション症例提示 (脳卒中) 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、治療プログラム、リスク管理、考察をまとめる	同時双方向型 授業			
13	「治療プログラム②」治療の実施方法を学習する。	同時双方向型 授業	治療の実施および設定方法について教科書、参考書、配布資料で確認する。	8	
14	「治療プログラム③」治療の設定方法を学習する。	同時双方向型 授業			

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

15	症例（脳卒中）に対する統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、考察を復習する。	同時双方向型 授業	症例に対する統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、考察のレポートを再確認する。	4
試	定期試験 達成度評価、評価ポイントを参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	20	0	0	0	0
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	学期末に定期試験を実施して評価をする。教科書ならびに配布プリントから出題し、理解度を問う（筆記試験、80%）。	必要に応じて解答を提示し、解説を行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①	提示症例に対して治療プログラムの立案、効果判定まで行い、理学療法の系統的プロセスの理解度を問う。レポートのまとめ方は講義時に提示する（20%）。	15 回目に、統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、考察について模範レポートを提示しながら解説していく。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

備考

担当教員：大塚 篤也、川内 翔平

**教員の実務経験**：理学療法士として大学病院、総合病院、整形外科クリニック、通所介護施設、大学等での勤務経験あり。

**実践的授業の内容**：ペーパーシミュレーションにて症例提示をする。また担当教員が実際に担当した症例を通して学んだ治療の視点・工夫などを提示する。

本講義は、Teams を使用した同時双方向型授業を行う。通信容量制限がある場合は通信量に十分注意してほしい（授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境で受講することを推奨する）。